

札幌彫刻美術館友の会会報

いざみ

第16号

2006年7月1日発行

(題字:國松 明日香氏)

本郷新彫刻シリーズ 16



「創智の誕生」 苫小牧市南3号埠頭公園 (H130cm×W210cm レリーフ)

苫小牧周辺一帯の海岸は漂砂が多く、港の建設は不可能とされていた。その漂砂の追跡にアイソトープ（放射性同位元素）を使うことで成功し、1979年、世界で初の内陸埠込式港が誕生した。

現在の北日本最大、道内港湾貨物取扱量45%を誇る苫小牧港誕生の陰にはこうした科学の英知があった。

(文・写真 仲野三郎)

目 次

本郷新彫刻シリーズ 16 「叡智の誕生」	表紙
目次 彫刻美術館行事予定	2
彫刻美術館新館長あいさつ「市民に愛される美術館に」	川合悌一 3
友の会総会特別企画「市長と『おしゃべり』しませんか」	誌上再録 4
「北の創造者たち展 lovely—らぶりい」に寄せて	岩崎直人 6
西村計雄美術館 今までとこれから	磯崎亜矢子 7
「本郷新と黄金比のスパイラル」	中野邦昭 8
関心呼ぶ「野外彫刻」	小助川政雄 10
本郷新のちょっといい話 4	仲野三郎 11
ギャラリーシリーズ 12	原 典夫 12
抜海の目	13
友の会総会開催 18年度役員 展覧会案内 アトリエ訪問ツアー	14

札幌彫刻美術館展覧会・行事予定（7月—9月）

本館	記念館	散策と美術鑑賞の会	教育普及事業
平成18年度前期收藏品展 「平和への祈り」 ~8月20日 (8/21-25臨時休館)	平成18年度前期收藏品展 「賞牌とメダル」 ~8月20日 (8/21-25臨時休館)	7月29日 ステージⅢ 「宮の森彫刻 フィールドワーク」 9月30日 ステージⅣ 「秋の三角山」	7月7日 市内彫刻めぐり 7月21日 サマーコンサート 8月1,2日 子ども造形教室(小学生) 8月3,4日 子ども造形教室(中学生) 9月13,14日 道内めぐり 9月23日 宮の森サンクスデー
北の彫刻展2006 8月26日~10月9日 北海道在住作家による 彫刻展	本郷新の装丁本 8月26日~10月9日 本郷のデザインした本の 装丁を展示		

（財）札幌彫刻美術館 札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

◇開館時間：午前10時～午後5時 ◇休館日：月曜日（月曜日が祝日などの場合は翌日）

◇交通機関：地下鉄東西線「西28丁目」駅下車 ジェーアール北海道バス「環20」山

の手環状線3番乗り場、「彫刻美術館入り口」下車、徒歩10分

札幌彫刻美術館新館長に川合悌一氏が就任

札幌彫刻美術館の館長に新年度から川合悌一さんが就任したのに伴い、新館長の抱負を寄せてもらいました。

市民に愛される美術館に

今、札幌は百花繚乱の季節といってよいのだろう。桜、チューリップに続いて美術館の周辺のお宅の庭には、シャクナゲやツツジが盛りを迎えている。ここ札幌彫刻美術館から四方を見回すと東に円山と大都市札幌の中心部が望まれ、南には大倉山ジャンプ台、西に三角山と、自然条件に恵まれた閑静な住宅街に位置しており、周辺を散策するだけでも癒される街である。

さて、もうもうの良い条件に恵まれているこの本郷新記念美術館の今後の館運営の重点を次の3点にしぼって進めていきたいと考えている。

1 一人でも多くの市民の来館を願い、幅広い宣伝活動を展開する。特に、小中学生の現地学習、総合の学習、フィールドワークやPTAの社会部や家庭教育学級の研修の場としての活用である。また、お年寄りや障がいのある方々も積極的に受け入れる。

2 従来より行われている本館独自の企画展の開催を継続する。また、地域の方々による企画展の開催を奨励する。

札幌彫刻美術館館長 川合 悌一

取り組みで根強い人気のある「散策と美術鑑賞の会」(円山・大倉山・三角山散策との組み合わせ)や児童生徒、一般の方への教育普及事業(彫刻巡り・造形教室)など、参加型行事のなお一層の充実を図る。

3 市民、地域の方々に愛されるあたかい彫刻美術館運営を大切にしたい。具体的には町内会や地域有志の協力による彫刻美術館を中心とした行事の開催などである。

札幌市民はもちろんのこと、全国そして世界の人々に一人でも多く来館いただき、本郷新の魂が刻み込まれた彫刻、ヒューマニティーあふれる作品に触れ、今、そして未来を生きる元気を感じていただくことを願い、職員一同日々努力を続けていきたいと決意しているところである。友の会の皆様の不断のご支援と関係機関や地域の方々のご指導ご協力をお願いしたい。

2006年友の会総会特別企画

上田文雄札幌市長を迎えて

誌上再録

「市長と“おしゃべり、しませんか”」

2006年5月20日 札幌市教育文化会館

司会 高橋淑子会員

市長冒頭あいさつ 市長に就任して3年が経過したが、町に出て市民と一緒におしゃべりをするタウントークを年10回、既に30回行ってきた。今日は彫刻美術館友の会と札幌の芸術・文化をテーマに話し合いたい。音楽が好きで、10年前に札響クラブを発足させ、現在700人超のメンバーが楽団員と聴衆の橋渡しをしながら、仲間を増やし、市民的な立場で札響の基盤を支援している。

こんな芸術・文化と市民の関係があることを知つてほしい。一方、この20年間で札幌の芸術・文化を育むハードの設備作りは終わった。これからこの施設を使い、人の心を豊かにする本当の意味での芸術文化の盛んな町にしていきたい。それが私の使命でもあると考えている。

橋本信夫友の会会长あいさつ 私たちは「美に対する好奇心をボランティアの心で満たそう」を標語に掲げ、「できる人が、できるときに、できることをする」をモットーにしている。これを機会に札幌の芸術・文化の将来像について活発な意見を交わしたい。

司会 では、最初に「芸術文化を子供たちにどう伝えるか」について。

長峯 長いこと美術館ボランティアをして感じるのは、美術館には本当に触れるこの出来る生の作品があるのに子供たちがそういう機会を利用するチャンスがないこと。1年に1回でも授業の一環として美術館に行ける方法を考えてほしい。

市長 絵にしても音楽にても初めの出会いが大切。それにはまず、先生方を美術館に連れて行くことが大事。先生を仲間に引き入れ、やってみようかという気持ちを起こさせることだ。

司会 芸術の森野外美術館など、遠足版の美術館訪問にぴったりだと思う。

市長 学校教育は機会平等だから全部一緒に行かなければいけないということではなく、クラス単位で行けばいいのでは。

橋本(禮) 学校の先生は忙しすぎて余裕がないと言われるが、学校に熱意があるかどうか、余裕を先生に与えられる校長がいるかどうかが、一番のキーポイント。

市長 札幌市では今、子供の権利条例を作ろうと頑張っている。その中に芸術・文化を学ぶ権利もあるが、権利があっても子供は行使できないから、大人が権利行使の



義務を負う—そんなことを考えている。

山崎 一般市民、美術教師としての意見だが、教育委員会から校長に対し年1回は美術鑑賞をするよう指示する。そうすると教師はやらざるを得なくなる。美術館の存在意義も出てくるのではないか。また、展示物を見せるだけでなく、作品作りの実際の場面を見せるような行動展示も必要だ。

司会 次は芸術・文化の楽しみ方ですが。

岡本 時間的に余裕のある団塊世代が増えてきている。そうした人たちが気軽に美術に触れられるようなイベントや癒しを提供するような施設がほしい。

市長 大人も子供も感じる美しさは同じだから、興味を持てるような仕掛けを作っていくことは大事だ。美術館の「旭山動物園化」のように在来の美術館の概念から離れて認識を改めることも大事かなと思う。

司会 文化・芸術の担い手を育てるにはどんなことが考えられるか。

斎藤 この点に関して、私は道内の一定レベル以上の作家の作品を集めたコレクション美術館はどうかと考えている。例えば、大通小学校が学校統合で廃校になるが、この周辺には道立近美、三岸好太郎美術館、教育文化会館などが集中しており、この地域を文化ゾーンとして計画できないか。小川マリ、片岡珠子、佐藤忠良などたくさん挙げられる。

市長 作家の目というか情熱といったものを生で知ることも大事なことで、そのサポートをする用意はある。時間がかかることだが、出来ることからやっていくことが大切だ。大通小学校跡地は定時制の高校を作ることで既に計画している。高校だけではなく複合施設にすることも検討課題なので、

多くの知恵を借りながら考えたい。

司会 では芸術・文化を守るという観点から作品保護などについて。

仲野 北海道には野外彫刻がざっと2200あるが、札幌にはそのうちの5分の1、約400点ある。しかし、鳥の糞などで汚れているものが多く、観光の点からも残念である。美観の観点から何らかの対策はとれないか。

市長 市が管理する彫刻は約300と聞いているが、管理する部門がばらばらである。機構上の問題として管理、保存、保全の仕方をしっかりとしなければならない。彫刻を自分の子供のように美しく保存しよういうアダプトグループを作っていくことも考えられる。メセナ的活動としての運動を起こすなど、非常に深刻な問題として考えなければならない。

司会 最後に芸術・文化の未来について。

太田 一昨年から施行された指定管理者制度により、作家と美術館、芸術を楽しむ人たちの関係がより濃厚になるような施策を期待したい。

市長 4月1日から本格導入した指定管理者制度は民間の活力を施設管理に反映させるもので、経費の面でも利用者にとっても使いやすい施設になることを狙った制度なので、3者の関係をより濃密にする可能性としては大きいと思う。

司会 小さな美術館の館長公募制なんか考えられるのではないか。

市長 あり得るのではないか。今の制度でもできないことではないと思う。(了)

懇談会の模様は7月発行の札幌市の広報「さっぽろ」にも掲載されています。

「北の創造者たち展」Lovely～らぶりい～に寄せて

芸術の森美術館学芸員 岩崎直人

札幌芸術の森美術館では、「北の創造者たち展」という現代美術のグループ展を2、3年に一度の割合で行っている。その都度テーマを設定し、それに適う北海道にゆかりのある美術家を数名選出し、新作を中心に発表してもらうというスタイルだ。前回は、江戸時代の戯作者近松門左衛門の芸術論を指し示す言葉、「虚実皮膜」を副題に借り、虚構と現実の狭間に物事の本質を見いだすという、いわば、現代美術の王道を行くような展覧会であった。伊藤隆介、上遠野敏、坂巻正美、鈴木涼子、坂東史樹、藤木正則の6人の実力派で構成され、展示室の隅々に至るまで空気がぴんと張り詰められていたあの緊張感を3年経った今も忘れない。一転、記念すべき10回目を迎えることとなった今回の北創展はしなやかに「Lovely」と銘打った。

その出品作家は、樫見菜々子、彼方アツコ、佐々木雅子、設楽知昭、堀かおり、松村繁、松原成樹、森迫暁夫の8人。絵画、彫刻に加え、陶芸、人形、版画、イラストレーション、インスタレーションとジャンルもさることながら、表現も多彩な顔ぶれが集まった。樫見は、動物のぬいぐるみをインスタレーションに取り入れて、そこに日常生活の中で感じた目には見えない感情や抽象的な出来事を重ねて見せた。

堀は、擬人化されたうさぎの人形たちでおとぎ話の世界を現出させた。森迫は若仲ばりの精緻な描き込みと巧妙な構成で、彼方は柔らかなタッチと自在な描線で、まさに「カワイイ！」世界を繰り広げた。松村は写実の限界に迫るような卓越した描写力で美しき女性を描き、佐々木は古来の乾湿彫刻を応用して我が子に対する深い愛情を降り注いだ。松原の器が描くラインはこの上なく愛くるしい丸みを帯び、設楽の絵画に対する真摯な思いは指先から発露し、幻想的な大壁画となつて現れた。

それぞれの作家のそれが抱える温かな思いが優しさを湛えた作品となって生まれ出で、今度は、展示室が愛くるしい雰囲気で彩られた。本展は、手仕事の重要性を改めて知らしめ、身近なテーマで鑑賞者を美術に近づけたという意味で、現代美術の新境地を拓いたといつても過言ではないであろう。作り手の側からも、観る側からもとても意義のある展覧会だったと自負する。

紙幅にも限りがあるため語りつくせぬ部分も多々あるが、また、展覧会も終わったため実見していただくこともできないが、展覧会図録として、8人8様のラブリー・ワールドを一冊の本に収めているので、ぜひご覧いただきたい。

西村計雄記念美術館 今までとこれから

(本版より、良文) 岩崎 亜矢子

北海道の南西部、後志地方のほぼ中央に位置する共和町は、人口約7,000人の農業のまちです。山から海へと至る変化に富んだ景観と、豊かな山海の幸に恵まれた後志の風土は、これまで多くの芸術家を育んできました。近隣町村には6つの美術館・文学館が点在し、それらは「しりべしミュージアムロード」のネットワークで結ばれ、展覧会や広報活動を連携して行っています。

西村計雄記念美術館は、共和町出身の洋画家・西村計雄から自作絵画の寄贈を受けたことを契機に、1999年11月1日、画家の古里を一望する緩やかな丘陵地に開館しました。巨大なガラスの箱から一対の翼が突きだしたようなユニークな外観は、画家がガラス拭きから独自の画風を築くヒントを得たというエピソードに基づいています。開館当時百余点だった所蔵作品は、現在約5,400点にのぼり、調査・研究の充実と多様なテーマによる展示を可能にしています。

たくさんの方々に支えられて、当館は今年7周年を迎えます。これまで「さまざまな人たちが出会い、交流し、学び合う場」を目指し、参加を促す仕掛けを盛り込んだ展覧会や、学校と連携した鑑賞プログラム、アーティストによるワークショップ、コンサートの開催など、作品を核とした交流を促す

西村計雄記念美術館 磯崎 亜矢子

試みを行ってきました。また、ボランティアによる交流イベントは、美術館のファンづくりに大きな役割を果たしています。

しかし、美術館を取り巻く状況は年々厳しさを増しています。この美術館は、地域の人たちの「学び」や「楽しみ」にどのように貢献することができるのか。これまでの活動を利用者の視点から問い合わせをおす必要を感じ、現在「鑑賞」に焦点を当て検証を試みています。鑑賞行為の過程では、作品だけでなく、他者の発言やキャプションなど、複雑に絡み合う多様な要因全てが資源になっています。知識や経験に関わらず、目の前の作品からコミュニケーションを始めることができ、お互いがお互いの資源になれる。ここに、美術館ならではの学びや楽しみがあると考えます。

これからも、より多くの方々の学びや楽しみに貢献できるよう、利用者の実態から示唆を得て活動に反映させていくとともに、地域の方々や、ミュージアムロードの各館と連携しながら、多層的で具体的な活動の提示を行っていきたいと考えています。7月12日から8月20日まで、ミュージアムロード加盟館が連携し「しりべしの5つの星」と題した共同展を開催します。ぜひこの機会に後志へお越しください。

「本郷新と黄金比のスパイラル」

中野 邦昭（会員、日本画家）

私が卒業した当時の京都市立芸大では「日本画」「油絵」「彫刻」「構想設計」の分野を3年生になるまで自由に選択できる「造形コース」というシステムがあり、私は立体も好きだったので1年の後期に「彫塑」を学んだ。しかし、「日本画」も魅力的なので結局、「日本画」を専攻してしまった。卒業してすぐに第1回北海道平和美術展に出品した。本郷新氏は創立会員にして呼びかけ人の一人だった。だから「彫塑」も本郷新氏とも無縁ではない。お会いしたことはなかったけれども新の作品、とりわけ「嵐の中の母子像」は大好きで、道立近代美術館に行くたびにじっくり観賞させていただいている。

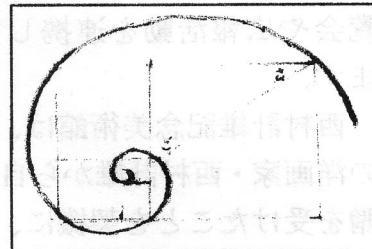
最近、「ダビンチ・コード」が映画化され、黄金比（1:1.618の矩形）、フィボナッチ数列（2,3,5,8,13,21…）が脚光を浴びているが、私も以前から美しいとされる黄金比を自分なりにほんの少し研究してきた。矩形の黄金比分割を繰り返すとスパイラル（螺旋）ができる

き、その対角線の角度は33°と57°になる。

日本画には四条円山派の応挙が最初に唱えたといわれる「写生」と言う言葉がある。さまざまな解釈があるが、私は「生命」を生き生きと写す「気韻生動」と理解している。つまり「生命」は見える形だけではなく、気配、気品、空気、心、音、時間、温度等、見えないものもあわせもっている。そして「生命」は一瞬たりともどまつてはいない。増殖、減少したり拡散、凝集したりして形を造っている。1個の受精卵の細胞が60兆にも増殖して人間という「生命」をささえ、死滅と生成を繰り返して成長から老化へと向かう。1粒の種が芽吹き、花を咲かせ、散っていくように。

「生命」の「線と形」の「拡散」と「凝集」は無秩序にあるのではなく、何か法則を持っているのではないかと考えている時、この「スパイラル」に出合った。それは「生命」の増殖ラインだ。

「これは何かある」と直観して透明シートに写し、さまざまな自然物写真と照合してみた。何と何と、すでに言われている事例も含め、無数のサンプルが見つかった。宇宙の銀河、胎児、雲の流れ、頭蓋骨、骨盤、肋骨、脳、ひまわりの種。このほかにも眠る小鳥、猫、犬と無数のスパイラルに入るサンプルが見つかった。その他にもフィボナッチ数列では手の指の関節、黄金比の対角線



手書きのらせん

は三角山や富士山の角度になる。

宇宙、自然の中で「生かされている生命」は、親と子が似るように「ひな形」 = 「スパイラル」をもっている。「ひな形」を持つことが、人間に美しいと感じさせる要素のひとつになっているのでは?と思ははじめた。だとすれば「生命」を造形する絵画や彫刻もまた「ひな形」を持つに違いない。

案の定調べたら出るわ、出るわ、サンプルが多くて掲載できないが、このほかにもピカソ、クリムト等、無数の例を挙げることが出来た。

何故こんなことがあるのだろうか? これは宇宙・自然と造形の秘密めいた「約束事」ではないのか? 意図的に「スパイラル」を取り込んだかどうかは別にしても結果的に作品の中に「ひな形」を持つと構成が力強く、心地よく、美しくなる。それは宇宙、自然とつながり、共振したことになるからだろうか?

美しい螺旋を描くサンプル (写真左から「嵐の中の母子像」「銀河」「胎児」)



■■■上田文雄札幌市長が日経コラムに執筆■■■

友の会総会後の「市長とおしゃべりしませんか」に出席していただいた上田文雄札幌市長が6月1日の日本経済新聞のコラム「交遊抄」に懇談会で発言された札幌彫刻美術館の「蒼穹」像について書かれていますので市長、日経の許可を得て下記に転載しました。

自宅の書斎
二十歳の時の最初のデ
の机の引き出
しに百二十分
用のカセット
テープが三十
七本入っている。私と友
人二人が成人した年か
ら、毎年末に一年を振り
返った声を録音し
たものだ。友とは
法律を学んだ加藤
良夫、在間正史両
氏である。

中央大学法学部で
激しさを増す時
私たちが入学し
たのは大学闘争が
代。社会的弱者の
救済にどうかかわ
るのか、どんな法律実務
家になろうとするのか、
真剣に語り合つた。卒業
後、三人は司法試験に合
格し、加藤氏は医療事故、
在間氏は環境保護、私は
労働・消費者事件を専門
に扱う弁護士となつた。
お(札幌市長)

■■■上田文雄の語らい■■■

二十歳の時の最初のデ
ト制作から三十七年。
学生時代に語った理念に
沿つた生き方をしている
か、今も互いに確認し合
う証拠だ。

先日、彫刻家の本郷新
を記念して建てられた札
幌彫刻美術館を訪
れた。「蒼穹」と
題した石こう像があつた。中央大の
中庭にある「青年像」の原型だ。それを見て「青年像」の台座に「若人は語り合いをして歩くのが好きだ」と記されていました。私たち三人はこの青春時代そのものよ
うな気がした。

関心を呼ぶ「野外彫刻」 友の会ビデオで知る開拓の歴史

札幌市視聴覚センター推進委員 小助川 政雄

私が子供のころ、よく遊んだ所に、こんなもりとした森があり、せせらぎや沼もあり楽しく遊び回った円山公園がある。そこに、日本で初めて天然記念物の指定を受けたと言われている円山原生林があり、その片隅に、大きく、りりしい銅像がある。そのころすでに設置されていたかどうかは不確かだが、それはひときわ重量感をもって見る者に迫ってくる。一昔前まで、夏の緑に包まれた夕涼み、ホタルも飛んでいたところである。わざわざ人の手によってこの自然の中に建てるには、特別の訳があるものだろうと思っていた。後に、私の卒業した札幌西高の大先輩、佐藤忠良氏作の岩村通俊像であることを知った。また、一時期を過ごした真駒内の勤務校は、オリンピックの関連施設だったところであり、近くにある真駒内公園は、学習活動を広げてくれる貴重な場所としてよく利用された。その競技場近くに、高く、高く伸びた台座に、わざわざ乗せられていたのが「雪華の像」。当時は、物好きな作家もいたものだと思ったが、それが本郷新との出会いであった。当時、北国札幌の生活を北欧との比較で講演をしていただいた故伊藤隆一先生のお話の中に、「釧路の幣舞橋にある野外彫刻が寒そうで…」というくだりがあり、同感の気持ちでいた私であったが、

その後、芸術の森での野外彫刻展からはじまり、イサム・ノグチのモエレ沼公園など、あちこちに彫刻家の足跡が形になってきたと感じていたところである。

この度、彫刻美術館友の会制作による、ビデオ「時代を映す彫像—野外彫刻に学ぶ札幌の歴史」を見た。実物を目の当たりにしたときは、ただの人物像が置いてある程度で通り過ぎる人の方が多いのが普通かもしれない。この作品では、北海道開拓の発展や歴史という視点から優れた野外彫刻を取り上げて構成されており、見る者に興味と関心をもたせている。私は、改めて各作家の作品が、大事に展示されていることを知るとともに、街角にある彫刻にふと足を止め、いつごろ、誰が制作したものなのかななど思いを寄せるようになった。本郷新やイサム・ノグチが生誕百年を迎える市民の関心が高まっているこのごろである。

先日、彼らの後継者と言われている、北海道出身の安田侃の作品を「アルテピアッツァ美唄」に訪ねてみた。緩やかな曲線と量感のある白大理石の野外彫刻が新緑の中で息づいていた。

このたび、6月の第2回ちえりあ映画試写会で上映作品として取り上げさせていただきましたので、あわせてご案内いたします。

友の会制作ビデオ「野外彫刻と街角の美を守ろう」今夏撮影開始第3作

札幌・大通公園などで見る鳥の糞や長年の風雪で汚れたり変質したりしている野外彫刻を美しく保つマニュアルを紹介するビデオを制作する。公園管理者などのインタビューや彫刻家、ボランティアの清掃作業などを通して野外彫刻清掃の教材にする。シナリオ作成後、夏から秋にかけて撮影、来年2月完成を目指す。市生涯学習センターの応募作品。

第6話 春香山物語

◆ネーミングは春香山荘だが、釣り小屋とも呼んだ

本郷新は昭和38年に小樽市銭函の山の斜面にアトリエを造った。田上義也氏の設計によるもので、1階に大小のアトリエと研究室、奥にキッチンと食堂を設け、螺旋状の階段を上がると、しゃれたマントルピースのある居間と寝室の山小屋風の造りだった。

ここから生まれた作品の第1号は「小林多喜二の碑」で、モデルは、表情に理性と意思を明快に出している労働者と決め、小樽港でモデルを探した。また、裏に設けた窯でテラコッタを楽しんだが、その時作った「火と土の祭り」は本郷新の新しい境地を見せて今も楽しい。また、釣り好きの本郷新は、たくさんの同好の士を呼んで周辺の釣りを楽しんだが、彫刻家から釣りキチに変身した本郷は、ここを釣り小屋と呼び、「晴釣雨彫」の書を掲げていた。

◆アトリエ侵入事件

昭和41年3月10日ごろ、このアトリエに集団で侵入し、冷蔵庫を空にする事件が発生した。調べてみると犯人は中学生で、春香山のスキーの帰路、目に付いたしゃれた別荘に入り込み、空腹を満たしたものと判明。心優しい本郷新は学校側の謝罪に応じ、前途ある子供たちのために不間に付した。当時中学生といえば今は50代半ば。Sさん、Tさん、Oさんなど、社会の中堅で活躍しているだろうこれらの人々にその時のことを見いたらどんな面白い話が出ることか。

◆春香山荘から宮の森へ

このお気に入りの春香山荘も宮の森の土地を買うので手放したとされているが、手放した理由のひとつに専用自動車道の建設があったのではないかとも思われる。

私が安味元館長と訪れた?時にはそもそも気にならなかつたが、すぐ裏手に札樽自動車道が走っている。車の走行音も聞こえた。本郷新はこの自動車道に90坪の土地提供を余儀なくされている。昔、子供のころ遊んだ場所に近い宮の森にアトリエをと思ったことは確かだらうが、春香山荘が騒音や夜のライトなど静寂な環境でなくなつたのも一因だらう。宮の森町内会の中にこの時の売買にかかわった人がいる。お会いして本郷の本音が聞きたいものだ。

◆後日談

友の会では一昨年、渡辺行夫先生のアトリエ訪問のバスツアーを行い、先生に本郷新の旧アトリエを案内していただいた。先生の先導で仕切り丸太をくぐって進んだが、雑草にさえぎられて41人迷うことしばしば。やっとたどり着いてアトリエと窯を見たが、10年前とは大違いで、もはや、床も抜けてまったくの廃屋だった。

この窯のことを聞いた若手作家のLさんが、自ら現場の状況を確認し、ぜひこの窯を使って作品を作りたいと言った。放置され、ただ朽ちていく窯、それがこうした意欲ある人に使われることは本当に喜ばしい。友の会の支援でこの希望をかなえることはできないものだらうか。

「ギャラリー山の手」

このギャラリーは西区山の手通りに架かる富茂登(ふもと)橋の下に広がる発寒河畔公園のほとりにある。サンケン環境(株)を経営する山形健次郎さんが、平成2年にこの地に自宅と本社を移すに当たり、その1階にギャラリーを開設した。若い頃から絵画を熱愛していた山形さんは、以来、企業メセナとして、主に道内の作家に発表の場を提供すると共に、自分が蒐集した作品も含め地域の人々に良い絵を見てもらうと情熱を傾けてきた。

展示室は壁面40メートルを有し、3週間を単位として無料で貸し出している。これからの年内の展示予定は、

7/10 ~ 7/31	日本縦断彫刻展(二紀会10人)
8/3 ~ 8/28	田村佳津子個展(油彩、道展)
8/30 ~ 9/20	塙田進個展(油彩、一水会)
9/22 ~ 10/14	高橋和彦個展(油彩、釧路)
11/10 ~ 12/1	田中茂基個展(油彩、札幌)
12/8 ~ 12/22	Xmasチャリティ小品展

なお、このギャラリーの近くには、地図と鉱石の山の手博物館(山の手7条8丁目)やパンの博物館の北欧館(山の手6条1丁目)もあり、四季を通じて発寒川河畔の散策を兼ねたギャラリー探訪も楽しい。

(原 典夫 会員)

場所：札幌市西区山の手7条6丁目4-25 TEL: 011-614-2918

開館：10:00～17:00 (日祝休)

碌山美術館紀行七首詠
濱 久子

(『原始林』〇六年四月号より)

十円玉の子供も加はり三十万人の

「考える人」に衝撃を受けたる碌山は

ロダンに学び造形始めし

ブロンズの「女」の裸像美しき

膝付き後ろ手のポーズ絶作

新宿の中村屋にて喀血死

「女」造り間なく三十歳五ヶ月

館の庭に高村光太郎の詩碑があり

打ち伏せる裸像の女「デスピア」は

読みゆけば「肺が破けた」

絶望とふ碌山愛に悩みし

文展に落選したる「デスピア」は

裸のポーズ悪しと百年前

本郷新生誕 100 年記念と 2000 人

本郷新生誕 100 年の記念事業も、2006 年 3 月の本郷新作品目録の刊行をもってすべてが終了した。

2005 年 5 月 21 日から 6 月 19 日までの一ヶ月間の、異例の 2 会場同時開催の展覧会を中心とした 100 年事業であったが、その結果と関連するメディア等の取り組みを広く調べて記録として残しておきたい。

そのまず第 1 弾はビデオで、対談「本郷新を語る」に始まる。このビデオは 2004 年 10 月 6 日に収録されたもので、本郷新を良く知る彫刻家の佐藤忠良さんを世田谷美術館長の酒井忠康さんが訪ねて語り合う対談で、両展覧会の会場で流された。

ついで新聞その他に触れてみよう。北海道新聞は本郷新展の広告を 1 ページ幅 5 段の大広告を含め中・小と 16 回、作品紹介記事を 17 回など、4 月から 6 月までの 3 カ月に 33 回掲載した。この他、美術館発行の図録・情報誌、ギャラリー発行の季刊誌などにも登場、さらには NHK の「新日曜美術館」でも放送された。これらのことはずすでに本誌 14 号にまとめてあるのでご覧いただきたい。

さて、これらの美術館をはじめとする関係する方々が努力し、実施された 100 年記念事業だが、その評価をどう下せばいいのだろうか。

本誌 14 号でも述べたように、その成果を示す指標のひとつは入館者数だろう。今年 3 月末で彫刻美術館の平成 17 年度入館者数は 7,810 人だった

(館集計)。ここ 4、5 年の入館者数は 6,000 人を上下している。とすれば 17 年度のこれらの努力による入館者増は約 2,000 人を見てよい。

さらにもうひとつ、両会場の展覧会について考えてみよう。芸術の森美術館会場のコンセプトはモニュメント先駆者としての主要作品や創作期ごとの象徴的作品を、整ったロケーションのもとで生き生きと展示するとし、彫刻美術館会場では、個人の内面に迫る肖像彫刻、デッサン、レリーフ、挿画、ペンダント等でマルチ的表現者としての本郷を追おうとしている。

その狙いは当たった。しかし、図らずもその一方で常々感じている「本郷新の作品はそれなりの場所を得て生きた展示が出来る」ということが裏付けられた結果になった。日常の展示にも場所と背景が必要なことが証明されてしまったと言えるだろう。

かくして終わった生誕 100 年事業、みんなで知恵を出し合い、できるだけ盛り上げに努力した一年だったが、それを総括するとどうなるだろう。

入館者増 2000 人、されど 2000 人だったと言いたい。

この経験と結果は関連する施設や人たちの今後の事業計画・運営に大いに参考になるものと思われる。



18年度友の会総会開催

上田市長招き芸術文化テーマに懇談会

札幌彫刻美術館友の会の平成18年度総会は5月20日、札幌市教育文化会館で開かれ、17年度事業報告、同決算報告、平成18年度事業計画案、同予算案を原案通り可決、新年度役員選出を行った。新年度事業では作家交流として、後志ミュージアムロードと洞爺湖周遊、伊藤隆道アトリエ訪問などを決定した。

総会終了後、午後から上田文雄札幌市長を招き、「札幌市の芸術と文化について」のテーマで懇談会を開催、約70人が参加、芸術文化行政への市長の考え方などを聞いた。

(懇談会の模様は4ページに掲載)

友の会18年度役員

会長 橋本 信夫

副会長 事務局長 斎藤美年子

同 仲野 三郎

同 原 寿子

幹事 高橋 淑子

同 大内 和

同 長尾恵美子

同 太田 市子

同 三上 正一

同 大地 淳

同 鈴木 敏明

同 岡本 憲子

同 吉田 修子

同 大竹 明子

同 佐々木保枝

監査 濱 久子

同 高津多香子

展覧会案内

● 第7回グループ「環」絵画展

—7月2日 大丸藤井セントラルスカイホール

会員の橋本禮三さんが出品

● 芸術団jam展

8月3日—8日 アートスペース201

(札幌市中央区南2西1)

宮崎享、八子晋嗣両会員が出品

● 溝口芳夫写真展

「ふるさとの開拓者を知ろう」

8月22日—27日 札幌市写真ライブラリー

北海道の開拓に挑んだ先人たちの苦労を100点の作品で追う。

伊藤隆道アトリエ訪問 8月24日実施

札幌出身の彫刻家・伊藤隆道さんの北広島市のアトリエなどを訪ねるバス・ツアーワーク

◆ 8月24日(木) 午前9時

中央区大通西1、NHK前集合

◆会費 会員4,000円、一般4,500円

(定員先着40人)

伊藤隆道アトリエ=エー・アイ・エム工場内ギ

ヤラリー=同工場=竹山高原温泉

(午後5時札幌着解散予定)

◆問い合わせ 斎藤美年子(643-7246)まで

彫刻美術館友の会 会報「いづみ」No.16

2006年7月1日発行

〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目

財団法人札幌彫刻美術館内TEL・fax:011-642-5709

発行人 濱 久子

編集委員の連絡先: 斎藤美年子: 011-643-7246

濱 久子: 011-893-5212